

博物館概論					単位	2				
授業コード	16700	科目ナンバリング	550Z0-1000-x2	期間	2021年度 第1期					
担当者	紺谷 亮一									
授業形態	講義									
授業形式	対面			リアルタイム遠隔			オンデマンド遠隔			
対面授業はF または S、遠隔授業は該当するものに○（複数可）										
●本授業の概要										
博物館・美術館の歴史をたどり、博物館の目的と機能や関係法規に関する基礎的知識を習得することを目的とする。さらに博物館の今日的課題ひいては、博物館の未来像を博物館倫理も踏まえながら探求する。また、個々の学芸員がどのような倫理（モラル）とモチベーションを持ちながら博物館活動をおこなっているかを、具体例を示しながら、改めて「学芸員」とは何か？について考察する。										
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性			
1	①博物館・美術館の市民社会における役割を認識し、そのための機能・内容等についての最新状況を含めて説明できる。									
2	②博物館法という最低限の「申し合わせ」を認識し、それについて具体的に説明できる。									
3	③博物館としてのポリシー、個としての学芸員のポリシーを具体的に論じることができる。									
4										
5										
●成績評価の基準					1	2	3	4	5	
1	小テスト	50%			1	2	3			
2	定期試験	50%			1	2	3			
3										
4										
5										
●実務経験のある教員による科目					実務あり					
●実務経験の授業への活用方法										
岡山市立オリエント美術館の学芸員として博物館業務に携わっていた経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策を実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。										
●日本語以外の授業への活用方法										
●授業予定一覧										
1 博物館の存在意義—博物館と国民の文化的欲求—										
2 学芸員とは何か—研究、展示、教育普及、資料保存—										
3 博物館の分類—専門博物館と総合博物館—										
4 博物館の倫理—学芸員の倫理性—										
5 博物館利用の方法—教育機関としての博物館—										
6 海外の学芸員—その社会的ステイタス—										
7 従来の博物館学—デッドミュージアムとは何か—										
8 博物館法の問題点—博物館を生かす為の「法律」—										
9 日本人的思考回路—明治以降の学校教育—										
10 博物館前史—社会文化からみたヨーロッパと日本の比較—										
11 近代博物館の出発—展示資料の文化的背景—										
12 開かれた博物館の誕生—「物」から「事」へ—										
13 これからの博物館に必要なもの—グローバル化と地域密着型—										
14 学芸員の活動紹介—個と市民—										

15 展覧会プロデュース—他分野の専門家との共同作業—

●試験

16 定期試験（筆記試験）

●試験のフィードバックの方法

各試験の終了後、解説する。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。

（復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。

自主学习に関しては、各回2時間程度が望ましい。

●必携書（教科書販売）

使用しない

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<必携書>

『博物館を考えるⅢ』，水藤真，山川出版社

『博物館を考える—新しい博物館学の模索』，水藤真，山川出版社

※購入方法についてはおって指示する

<参考書等>

なし

●オフィスアワー

授業中に指示する。

質問は随時、電子メールでも受け付ける。

●連絡先

kontani@post.ndsu.ac.jp

●留意事項

本授業を履修する学生は、ただ聞くというのではなく、考えながら聞くという姿勢で、授業に参加するようにして欲しい。リアクション・ペーパー等を活用して積極的に質問してもらいたい。疑問点には次の授業で触れるようにする。

博物館資料論					単位	2			
授業コード	16710	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	期間	2021年度 第1期				
担当者	橋本 龍								
授業形態	講義、実習								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	S		○		○				
●本授業の概要									
博物館の資料とは、博物館活動の基礎をなす、必要不可欠なものである。資料無くしては、研究も展示も教育も成り立たない。博物館資料とは何か、また資料の収集や登録・整理保管に関する理論や方法を実例に即して把握し、資料を取り扱う上での基礎的な知識を身につける。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	①博物館における資料の基本的な分類と、収集や登録・保管管理に関する理論や方法を及びその活用を説明できる。								
2	②それぞれの資料の特徴や歴史的・美術史的な意義を説明できる。								
3	③資料の取り扱いに関する注意点を理解し、実際に扱うことができる。								
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	博物館資料について（講義第1回～第4回）のレポート（40%）				1				
2	博物館資料の活用（講義第12回～第14回）についてのレポート（40%）				1	2			
3	実習態度（20%）				1	2	3		
4									
5									
●実務経験のある教員による科目					実務あり				
●実務経験の授業への活用方法									
自然科学博物館の技術者・美術館の学芸員として、資料収集（発掘調査）、資料の管理及び展覧会などの企画・運営、文化財を通じた日本の文化・美術・歴史などに関する調査などに従事した経験から、多様な博物館資料について実践的な講義を行う。									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1 博物館資料の概念									
2 博物館資料の収集Ⅰー収集の理念と資料の分類ー									
3 博物館資料の収集Ⅱー博物館資料になるまでー									
4 博物館資料の収集Ⅲー収集の課題ー									
5 資料取り扱いの基礎知識（実習Ⅰ）									
6 能装束と能面									
7 書跡・典籍・絵画資料									
8 掛軸・巻子の取扱い（実習Ⅱ）									
9 漆工品と陶磁器									
10 刀剣および金工品									
11 刀剣の取り扱い(実習Ⅲ)									
12 資料の劣化要因と保存・修復									
13 博物館資料の公開Ⅰー研究・展示ー									
14 博物館資料の公開Ⅱー展示見学（林原美術館見学）ー									
15 博物館資料の現状と未来									

●試験
レポート提出（2回）
●試験のフィードバックの方法
締切後の講義内で解説を行う。
●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容
（予習）予定されているテーマについて、関連する文献等で確認を行う。 （復習）講義で配布した資料、紹介した図書にて理解を深める。 予習・復習で2時間程度の学習時間が望ましい。 このほか、自由時間等で博物館・美術館を訪問したり、博物館について最新の情報に関心を持ってほしい。
●必携書（教科書販売）
使用しない。
●必携書・参考書等（教科書販売以外）
<必携書> なし <参考書> 参考書は講義時に適宜紹介する。
●オフィスアワー
質問は授業後に受け付ける。
●連絡先
E-mail : s8334@m.ndsu.ac.jp 林原美術館 Tel : (086) 223-1733 E-mail : ryo.hashimoto@hayashibara-museumofart.jp
●留意事項
対面授業は実習の計3回（5月13日、6月3日、6月24日）とし、その他の授業はzoomを用いたリアルタイム遠隔を中心に補助的にオンデマンド遠隔も活用する。

博物館経営論					単位	2			
授業コード	16720	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	期間	2021年度 第2期				
担当者	紺谷 亮一								
授業形態	講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）									
●本授業の概要									
昨今の博物館における職員・施設・設備について具体例を示すことによって、博物館を“経営”するとはいかなる事かについて考察する。また、博物館における情報にはどのようなものがあるかを習得する。そして博物館の機能を、運営と情報発信の立場から概説する。研究と展示そのほかの活動とが、完全に一体として運営される方式が今日、求められている事を理解する。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	①博物館が情報の発信機関としてどのような役割を果たすべきか、論じることができる。								
2	②博物館経営について、博物館の持っている多様な情報をいかに市民に還元しうるか、また、博物館における連携とは何か、ということの説明ができる。								
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	小テスト 50%				1	2			
2	定期試験 50%				1	2			
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目					実務あり				
●実務経験の授業への活用方法									
岡山市立オリエント美術館の学芸員として博物館業務に携わっていた経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策を実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1 博物館経営とはーその概念ー									
2 博物館ブームー高度経済成長と市民の知的欲求ー									
3 博物館経営の具体例ー職員、施設、設備ー									
4 行政と博物館経費ー地方公共団体の運営事情ー									
5 博物館経費ー人件費、委託費、光熱費等の支出ー									
6 日本の博物館総数ー博物館経営の現状と博物館法の問題点ー									
7 入館者数の推移ー高度経済成長、バブル経済破綻、低成長時代を越えてー									
8 博物館の情報発信ー市民参画の具体例ー									
9 あるべき博物館像ー理想郷としての博物館ー									
10 後継者の養成ー学芸員課程再考ー									
11 これからの博物館ー新概念ミュージアムの挑戦と挫折ー									
12 世界へ向けての発信ー博物館の連携とはー									
13 博物館の知名度									
14 博物館の情報媒体ーミュージアムグッズー									
15 マスコミとの連携ー地域活性化の視点からー									

※社会教育主事に関しては、2009年度以降入学生対象

●試験

16 定期試験

●試験のフィードバックの方法

各試験の終了後、解説する。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。

（復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。

自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。

●必携書（教科書販売）

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<必携書>

『博物館を考えるⅢ』，水藤真，山川出版社

『博物館を考える—新しい博物館学の模索』，水藤真，山川出版社

※購入方法についてはおって指示する。

<参考書等>

なし

●オフィスアワー

授業中に指示する。

質問は随時、電子メールでも受け付ける。

●連絡先

kontani@post.ndsu.ac.jp

●留意事項

本授業を履修する学生は、ただ聞くというのではなく、考えながら聞くという姿勢で、授業に参加するようにして欲しい。リアクション・ペーパー等を活用して積極的に質問してもらいたい。疑問点には次の授業で触れるようにする。

博物館資料保存論					単位	2				
授業コード	16731	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	期間	2021年度 第2期					
担当者	植野 哲也									
授業形態	講義・演習									
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔					
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）										
●本授業の概要										
文化財の公開・活用と維持・保存とを両立させることは、博物館にとって重要な課題であり、担当学芸員には十分な知識の習得と、的確な対応、そして日々の努力が必要とされる。科学的見地から資料の材質と劣化要因を知り、各材料・各資料に適合的な保存環境及び環境制御の方法に関する基礎的知識を学ぶ。あわせて博物館における危機管理や、資料の活用と保存について検討する。										
授業では、講義だけでなく、各授業において担当を決め、テーマに沿って事前に下調べとグループワークを行い、レジュメを作成し、プレゼンテーションを行っていただく。その後全員でディスカッションを行いながら授業内容を深めていただく。										
評価は授業でのプレゼンテーション及びディスカッション、2回のレポート提出をあわせて総合的に行う。										
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性			
1	博物館における「資料保存」とは、資料を収蔵庫で単に保管することを意味するものではない。現在まで伝えられてきた資料を未来へ引き継いでいくためには、法制度やその歴史、資料の材質や状態、展示・収蔵環境などにおける科学的知見、災害などに対する危機管理を含めた、多岐に渡る知識と技能が必要とされる。									
2	これらを習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養い応用することができる。									
3	授業においてプレゼンテーションするための事前のグループワーク及びレジュメ作成、授業をもとにした美術館見学後のレポート作成することによって、内容を整理し表現することができる。									
4	プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を簡潔に説明することができる。									
5	美術館見学を通して、資料保存の視点から作品展示の工夫を論じることができる。									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5	
1	受講態度（レジュメ作成、プレゼンテーション・ディスカッション）				60%	1	2	3	4	5
2	レポート				40%	1	2	3	5	
※展覧会見学に合わせてレポートを課す。										
3										
4										
5										
●実務経験のある教員による科目					実務あり					
●実務経験の授業への活用方法										
美術館の学芸員として、展覧会やイベントの企画・運営・管理、文化財を通じた日本の文化・美術・歴史・伝統工芸などに関する研究、それらに関連する講演やギャラリートークなどに延べ16年間従事した経験から、博物館資料保存に関する実践的な講義を行う。										
●日本語以外の授業への活用方法										
●授業予定一覧										
1 ガイダンス 文化財の保存とは										
2 文化財保存の歴史 ー文化財保護法の成立までー										
3 文化財保存の歴史 ー法制度の変遷と諸施設ー										
4 文化財ごとの収蔵方法										
5 文化財保存のための資料調査 ー調書作成、化学調査ー										

- 6 資料の貸借のための諸作業 —評価額の把握、梱包・輸送—
- 7 展覧会見学・レポート（1）
- 8 資料の劣化要因と保存・予防（1）—温湿度の測定と環境制御—
- 9 資料の劣化要因と保存・予防（2）—光と照明基準と展示活動—
- 10 資料の劣化要因と保存・予防（3）—IPMの概念と概略、カビ対策—
- 11 資料の劣化要因と保存・予防（4）—室内空気汚染と屋外環境整備—
- 12 資料の保存修理について
- 13 博物館における危機管理と資料保全—災害への対策—
- 14 展覧会見学・レポート（2）
- 15 海外博物館における資料保存の考え方

●試験

各授業ごとに担当グループを決め、プレゼンテーションしていただく。そのためのグループワーク及び、レジュメ制作を行っていただく。

2回行う課外授業での企画展見学を通して、レポート提出をしていただく。

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

各授業において講義を行うだけでなく、担当を決め、テーマに沿って事前に下調べとグループワークを行い、レジュメを作成し、授業ではプレゼンテーションを行い、その後全員でディスカッションをしていただく。各発表に対し、疑問を持って聞くことで、積極的な質疑から互いに内容理解を深めてほしい。（各グループでプレゼンテーション時の事前準備に約3時間）

●必携書（教科書販売）

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<参考書等>

『文化財保存環境学 第2版』三浦定俊・佐野千絵・木川りか著、朝倉書店
授業中に、適宜資料配布する。

●オフィスアワー

質問は授業後に受け付ける。

●連絡先

E-mail : s8316@m.ndsu.ac.jp

林原美術館

Tel : (086) 223-1733

E-mail : tetsuya.ueno@hayashibara-museumofart.jp

●留意事項

教科書は特に用いない。

その都度、必要資料を配布する。

博物館等で展覧会の見学を行うことがあるが、その際の費用は自己負担とする。

博物館展示論				単位	2			
授業コード	16735	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	期間	2021年度 第1期			
担当者	山口 雄治							
授業形態	講義・実習・演習							
授業形式	対面	リアルタイム遠隔	オンデマンド遠隔					
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	S		○					
●本授業の概要								
<p>展示・展覧会は、博物館・美術館を訪れるほとんどの人々にとって、来館の第一の目的といつてもよいであろう。したがって、博物館・美術館にとっても、最も時間、労力、費用を投入すべき事業である。来館者は、展示室に作品が陳列された、完成状態しか見る機会はないが、そこに至るには、様々な調査研究や、作業、調整、熟慮がある。本講義では、展示・展覧会を製作する工程を通じ、展示・展覧会の存在意義を考える。</p>								
●到達目標				知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	①博物館展示の歴史と現状および課題について論じることができる。							
2	②展示パネルを作ることができる。							
3	③博物館・美術館で観覧する展示・展覧会を製作する工程を概観し、学芸員として、どのような知識、能力、準備、作業が必要か理解し応用することができる。							
4	④今後、博物館・美術館の展示はどうあるべきか、どのような展示が社会、人々に必要とされるか論じることができる。							
5								
●成績評価の基準				1	2	3	4	5
1	レポートまたは試験（80%）			1	2	3	4	
2	授業態度（実習、演習への取り組み方）（20%）			1	2	3	4	
3								
4								
5								
●実務経験のある教員による科目				実務あり				
●実務経験の授業への活用方法								
<p>考古学・歴史学分野における研究成果の発信・普及啓発事業に携わっていた経験から、講義では博物館展示における考え方や方法についての現状と課題を考える。そして演習や実習では、展示を「見る側」と「作る側」の両者の視点から、自らが実践したい展示方法について議論し、展示を作成する。これらを通して、学生に今後の博物館展示に必要とされるものとは何か、あるべき姿とはどのようなものなのか、について考えてもらい、学芸員資格取得後の実践イメージの構築を促す。</p>								
●日本語以外の授業への活用方法								
●授業予定一覧								
1	講義 博物館と展示の種類							
2	講義 展示とは何か							
3	講義 展示空間の構成							
4	講義 展示の芸術性							
5	講義 展示の科学							
6	講義 展示の解説と造形							
7	講義 展示の照明技術							
8	講義 展示の図録							
9	講義 展示における学び							
10	講義 展示をつくる（パネル文章）							
11	実習 展示をつくる（パネル制作）							
12	実習 展示をつくる（レイアウト）							

- 13 演習 博物館見学（考古）
 14 演習 博物館見学（資料収蔵）
 15 演習 博物館見学（美術）

●試験

レポート

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

毎回の授業で、内容に関する参考図書、参考URLを紹介する。興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。また、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい。特にレポート試験では、小レポートと講義・演習・実習および博物館見学で深めた知識を用いて、多角的かつ発展的な論述を望む。

●必携書（教科書販売）

使用しない。

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<必携書>

なし

<参考書等>

講義中に紹介する

●オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

●連絡先

s8312@m.ndsu.ac.jp

●留意事項

1・2日目は遠隔、3日目は対面とする予定。

遠隔授業のレジュメ等やレポートの提出はmanabaを用いる予定。

実際の博物館等を見学しながら学ぶ講義がある（入館料が自己負担となる場合もある）。

博物館教育論					単位	2			
授業コード	16741	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	期間	2021年度 第1期				
担当者	紺谷 亮一								
授業形態	講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）									
●本授業の概要									
<p>教育機関としての博物館・美術館の役割を理解する。博物館・美術館は地域社会とどう連携するかを理解する。博物館教育論には大きく二つ①子供向けカリキュラム②大人向けのカルチャーセンターの役割がある。市民が博物館を日常的に活用できるような工夫が重要である。その為には義務教育制度として博物館を学校教育に位置づけていく事、大人の博物館ボランティアを社会制度として位置づけていく事が望まれる。</p>									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	①教育機関、生涯学習機関としての博物館・美術館の役割を説明できる。								
2	②学校教育における、博物館・美術館の存在を具体的に提起できる。								
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	小テスト	50%			1	2			
2	定期試験	50%			1	2			
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目			実務あり						
●実務経験の授業への活用方法									
<p>岡山市立オリент美術館の学芸員として博物館業務に携わっていた経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策を実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。</p>									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1 博物館学と教育制度Ⅰ－教育の本質及び目標と博物館－									
2 博物館学と教育制度Ⅱ－学校教育と博物館教育－									
3 博物館が学校教育に占める役割についてⅠ－博物館教育の構造－									
4 博物館が学校教育に占める役割についてⅡ－学校教育と博物館の連携・協力－									
5 博物館における教育評価の目標と方法－ワークシート、体験型学習の具体例と成果－									
6 立体化した教科書としての博物館Ⅰ－博学連携の実践例－									
7 立体化した教科書としての博物館Ⅱ－古代出雲歴史博物館の教育普及事業から学ぶ－									
8 博物館・美術館と生涯学習Ⅰ－生涯学習の意義と取り巻く環境－									
9 博物館・美術館と生涯学習Ⅱ－生涯学習を支える組織－									
10 博物館の機能と現状									
11 博物館利用者と学芸員－博物館と地域社会との関係－									
12 生涯学習の指導者としての学芸員Ⅰ－博物館利用者と学芸員－									
13 生涯学習の指導者としての学芸員Ⅱ－今後期待される学芸員による学習支援－									
14 生涯学習の指導者としての学芸員Ⅲ－大阪歴史博物館の教育普及活動から学ぶ－									
15 学芸員の未来像－学校外教育の場－									

●試験
16 定期試験（筆記試験）
●試験のフィードバックの方法
各試験の終了後、解説する。
●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容
（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。
●必携書（教科書販売）
●必携書・参考書等（教科書販売以外）
<参考書等> 『授業に役立つ古代出雲歴史博物館活用の手引き』 『なにわ歴博探検 大阪歴史博物館の利用の手引き』 上記2冊を学芸員課程から貸出。
●オフィスアワー
授業中に指示する。 質問は随時、電子メールでも受け付ける。
●連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
●留意事項
本授業を履修する学生は、ただ聞くというのではなく、考えながら聞くという姿勢で、授業に参加するようにしてほしい。リアクション・ペーパー等を活用して積極的に質問してもらいたい。疑問点には次の授業で触れるようにする。

博物館情報・メディア論				単位	2			
授業コード	16751	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	期間	2021年度 第1期			
担当者	村田 麻里子							
授業形態	講義・演習							
授業形式	対面	リアルタイム遠隔	オンデマンド遠隔					
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	F							
●本授業の概要								
<p>博物館そのものがメディアであることを考えるマクロな視点と、そうした視点を元に、情報機器やデジタルメディアが博物館の収集・保存・展示活動をいかにして形作っているのかをふまえたミクロな視点の双方について考え、両者を有機的につなげていくことを目指す授業である。</p> <p>博物館は、常に「モノ」とそれを取り巻く「情報」を扱い、それによって私達の社会の様々な「意味」を媒介させているメディアである。授業では、このプロセスについて、博物館の具体的な活動を通してひとつずつみてゆく。とりわけ、メディア・リテラシーの重要性、オーディエンスの存在、アクセシビリティの概念、アーカイブの意義と方法、デジタルメディアの活用については、メディア論的な視点からしっかりと考えたい。これらを通じて、デジタルメディア時代を迎えた博物館が、その活動をどのように再定義しうるのかを検討する。</p> <p>授業は講義のみならずワークショップ、グループ作業、博物館への訪問などを組み合わせて、なるべく理論と実践を往復運動させることを心がける。</p>								
●到達目標				知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	博物館がメディアであることを理解し、博物館の活動をメディア論的な視点から捉えることができる。							
2	博物館が活動の一環として使用する情報機器やデジタルメディアの意義を理解し、その活用について多角的な視点から考えることができる。							
3								
4								
5								
●成績評価の基準				1	2	3	4	5
1	授業への参加度・貢献度 60%			1	2			
2	グループ発表 20%			1	2			
3	レポート 20%			1	2			
4								
5								
●実務経験のある教員による科目								
●実務経験の授業への活用方法								
●日本語以外の授業への活用方法								
●授業予定一覧								
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 メディアとしての博物館（1）－博物館はなぜメディアか－ 3 メディアとしての博物館（2）－来館者のメディア・リテラシー－ 4 メディアとしての博物館（3）－送り手のメディア・リテラシー－ 5 オーディエンスから考える博物館（1）－来館者研究の系譜－ 6 オーディエンスから考える博物館（2）－来館者と多様性－ 7 オーディエンスから考える博物館（3）－アクセシビリティとはなにか－ 8 オーディエンスから考える博物館（4）－アクセシビリティを評価する－ 9 デジタルメディア時代の博物館（1）－アーカイブの思想とドキュメンテーション－ 								

- 10 デジタルメディア時代の博物館（２）－博物館と知的財産権－
- 11 デジタルメディア時代の博物館（３）－博物館におけるICT－
- 12 デジタルメディア時代の博物館（４）－博物館とインターネット－
- 13 博物館とメディア社会（１）－地域を考える－
- 14 博物館とメディア社会（２）－グローバリズムを考える－
- 15 まとめ

※現段階での予定。授業の進行状況のみて変更することがある。

●試験

課題レポートを提出

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

1. 授業で配布したプリントを活用して各自復習・振り返り作業を行うこと。また、参考図書や参考URLも提示するので、こまめにチェックしてほしい。

2. 授業で獲得した視点を教室の外でも意識し、博物館への理解を深めてほしい。

●必携書（教科書販売）

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<参考書等>

大堀哲・水嶋英治『博物館学III 博物館情報・メディア論*博物館経営論』学文社、2012年。

カセム、ジュリア『光の中へ－視覚障害者の美術館・博物館アクセス』小学館、1998年。

ディーン、デビッド（著）北里桂一（監訳）山地秀俊・山地友喜子（訳）『美術館・博物館の展示』丸善株式会社、2004年。

西岡貞一・篠田謙一（編）『博物館情報・メディア論』NHK出版、2013年。

日本教育メディア学会（編）『博物館情報・メディア論』ぎょうせい、2013年。

日本展示学会（編）『展示論－博物館の展示をつくる』雄山閣、2010年。

ハイン、ジョージ.E（著）鷹野光行（訳）『博物館で学ぶ』同成社、2010年。

浜田弘明『博物館の理論と教育（シリーズ現代博物館学1）』朝倉書店、2014年。

広瀬浩二郎『さわって楽しむ博物館－ユニバーサル・ミュージアムの可能性』青弓社、2012年。

村田麻里子『思想としてのミュージアム－ものと空間のメディア論』人文書院、2014年。

村田麻里子『メディアとしての空間』『大学生のためのメディアリテラシー・トレーニング』長谷川一・村田麻里子（編著）三省堂、2015年。

E.Orna & Ch.Pettitt（著）安澤秀一（監訳）水嶋英治（編訳）『博物館情報学入門（アート・ドキュメンテーション叢書）』勉誠出版、2003年。

●オフィスアワー

講義内容に合わせ、適宜博物館見学等を行うので、集合時間や集合場所などに気をつけること。

●連絡先

mmurata@kansai-u.ac.jp

●留意事項

博物館実習					単位	3			
授業コード	16760	科目ナンバリング	550Z0-3000-x3	期間	2021年度 第1期～第2期				
担当者	紺谷 亮一		岸田 悠里						
授業形態	実習・講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）									
●本授業の概要									
博物館資料はどれだけのことを語りえるのか。博物館や学芸員は文化財と来館者をつなぐパイプ役として、どのような文化的な役割と社会的な責任を負っているのか。本授業では、これらについて考えながら、多岐にわたる学芸員の実務を学ぶ。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	①博物館や学芸員の多様な仕事について総合的に理解し、説明できる								
2	②博物館資料を実際に扱うことができる								
3	③カメラの操作等に関する技術を実行できる								
4	④展示やギャラリートークなどを企画、実行できる								
5	⑤感性を磨くとともに、学芸員としての自覚を高め、応用できる								
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	発表・レポート	60%			1			4	5
2	実務（館務）実習	30%			1	2	3	4	5
3	授業態度	10%			1	2	3	4	5
4									
5									
●実務経験のある教員による科目			実務あり						
●実務経験の授業への活用方法									
岡山市立オリエント美術館の学芸員、龍谷ミュージアムのリサーチ・アシスタントとして博物館業務に携わっていた経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、将来的な新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策の違いを実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1	演習・基礎	博物館法や博物館の環境管理を確認しよう							
2	実習・体験	考古資料の取り扱いをしてみよう1—土器—							
3	実習・体験	考古資料の取り扱いをしてみよう2—ガラス器—							
4	実習・見学	岡山シティミュージアム							
5	実習・見学	岡山大学埋蔵文化財センター							
6	実習・見学	岡山市オリエント美術館							
7	実習・体験	考古学の現場1 —多視点写真測量実習（ラジコンヘリカメラ）—							
8	実習・体験	考古学の現場2 —多視点写真測量実習（ポールカメラ）—							
9	実習・体験	展覧会を企画しよう1 —担当教員監修展覧会イラン展を元に—							
10	実習・体験	展覧会を企画しよう2 —担当教員監修展覧会アッシリア展を元に—							
11	実習・体験	展覧会企画のプレゼンテーションをしよう1—発表—							
12	実習・体験	展覧会企画のプレゼンテーションをしよう2 —発表と評価—							

- 13 実習・基礎 展覧会カタログについて学ぼう
- 14 実習・体験 博物館実務（館務）実習館の事前調査をしよう
- 15 実習・体験 調査結果のプレゼンテーションをしよう
- 16 実習・見学 岡山県内の博物館・美術館見学
- 17 講義 第Ⅰ期 まとめ
- 18 演習・体験 史料の取り扱いをしてみよう1ー基本編ー
- 19 実習・体験 史料の取り扱いをしてみよう2ー応用編ー
- 20 演習・基礎 文化財の搬送の基本を知ろう
- 21 演習・基礎 実際の展示作業から取り扱いの要点を学ぼう
- 22 演習・基礎 展示体験1 展示室の特徴を把握しよう
- 23 実習・見学 展示鑑賞と展示室や設備を知ろう
（岡山シティミュージアム）
- 24 実習・体験 展示体験2 平面図を考えよう
- 25 実習・体験 展示体験3 パネル等制作の基本を体験しよう
- 26 実習・体験 展示体験4 自分の力でパネルを作ろうー製作ー
- 27 演習・基礎 古写本を作ってみよう1
ー敦煌文書等を題材に、写本を理解するー
- 28 実習・体験 古写本を作ってみよう2
ー写本の装丁を再現するー
- 29 演習・基礎 仏画の技法を学ぼう1
ーベゼクリク壁画を題材に、技法を理解するー
- 30 実習・体験 仏画の技法を学ぼう2
ーベゼクリク壁画を題材に、着彩してみるー
- 31 演習・体験 文化財の写真を撮ろう1ー立体物ー
- 32 実習・体験 文化財の写真を撮ろう2ー平面のものー
- 33 演習・基礎 展覧会チラシについて考えよう
- 34 演習・基礎 広報・連携と博物館を支える人びと
- 35 講義 第Ⅱ期 まとめ

●試験

発表・レポート、実務（館務）実習によって総合的に行う。

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

●必携書（教科書販売）

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

●オフィスアワー

授業中に指示する

●連絡先

紺谷：kontani@post.ndsu.ac.jp

岸田：urahakiretemonehakirenu@gmail.com

●留意事項

第Ⅰ期は紺谷亮一教授，第Ⅱ期は岸田悠里講師（龍谷ミュージアム リサーチ・アシスタント）が担当する。本学での授業のほか「実務（館務）実習」を大原美術館・林原美術館等でおこなう予定である。「実務（館務）実習」は例年8日間程度実施される。「実務（館務）実習」には事前・事後の指導がともなう。